

◆ 平成26年度（後期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	簡単な状況報告
人間文化学部 国際文化学科	学科長 高等教育推進部 門学科委員 学科教務委員	毎月曜2限	1925研究室	<p>テーマ アクティブラーニングを取り入れたグローバル人材育成のための支援検討</p> <p>参加者 毎回教員・学生10名程度</p> <p>簡単な状況報告 外国人留学生（交換留学生）との交流学修を主とした学年を超えた定期的な学修機会の設定と学生の自主的運営を支援する仕組みの研究研修を目的とした。国内に居ながらグローバル人材育成につながる国際交流を通して日本の社会・文化の理解を見直す機会を作り、学生の自主的運営やサポート体制を研究する内容を企図した。主にインドネシアからの留学生への日本語・日本社会理解を活動の土台に、サポーター学生との交流を教員がアドバイスしたり、計画的な運営を共同で企画して、アクティブラーニングとしての学修支援の在り方を模索検討した。参加学生は相互に成果が認められたが、しかし、時間や教員が限られ、学科としての成果はあまり挙げられなかった。今後も有効な仕組み作りを検討したい。</p>
人間文化学部 健康科学科	杉山 寿美 中瀬古 哲	平成26年10月14日（火）、 平成26年11月11日（火）、 平成26年12月9日（火）、 平成27年1月13日（火）、 平成27年2月16日（火）、 平成27年3月16日（月） 概ね17:00～17:20	1215会議室	<p>テーマ 実験系学科における「教育の質保障」と「SNE」の統一</p> <p>※SNE=Special educational Needs</p> <p>参加者 15～19名</p> <p>簡単な状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱えた学生の状況をスタッフ全員で共有（チームの守秘義務） ・学生への配慮と学士力の質保障の関係をどうとらえれば良いのか。 ・国会試験の組織的対策の、教育的意義（生活指導の側面）が再確認できた。 ・課題を抱えた学生も含め、卒論に取り組んだ学生全員揃って卒業することができた。
保健福祉学部 看護学科	山中 道代	平成26年12月24日（水） 13:30～16:30	保健福祉学部 4号館 4601会議室	<p>テーマ 議論を「見える化」する技法を身につけるための取り組み</p> <p>参加者 16名（看護学科13名、人間福祉学科1名、生命科学科1名、総合教育センター1名）</p> <p>簡単な状況報告 研修会テーマ： 「ファシリテーション・グラフィックの基本-多様な可視化の実際を体験する-」 講師：九州大学大学院総合新領域学府客員准教授 加留部貴行先生 講義と演習を交互に行うことで、ファシリテーション・グラフィックを体験しながら学んだ。可視化により効果的な情報交換が行われること、その結果ディスカッションの質が向上することを体験でき、参加者の満足度も高いものとなった（満足した11名、まあ満足した4名）。また、参加したことで要約する力の必要性を感じるなどの各自の課題も見つかっている。研修の内容を活用することで、ディスカッションを活性化させることにつながり教育効果が上がることが期待できる内容であった。</p>

<p>保健福祉学部 看護学科 教育課程検討会</p>	<p>松森 直美</p>	<p>平成26年11月～3月 (1回/月)計5回</p>	<p>保健福祉学部 3号館 2210会議室 他</p>	<p>テーマ 看護職としての社会人基礎力を考える 参加者 第1回8名, 第2回11名, 第3回10名, 第4回10名, 第5回10名 簡単な状況報告 「看護職としての社会人基礎力の育て方」を対象文献とし, 全6章のうち5章までの抄読会を行った。文献は某病院での取り組みを踏まえた内容であったが, 看護師に必要な社会人基礎力について丁寧に記述されており, 看護学科でどのように社会人基礎力を高めていくか考える上で役立った。また, 今回の抄読会を通じて, 本学のキャリア・ポートフォリオシステムと関連づけて社会人基礎力を高めていく必要があることを確認することができた。</p>
<p>保健福祉学部 看護学科</p>	<p>看護学科実習検討会担当教員</p>	<p>①平成26年10月20日(月) 16:20～ ②平成26年11月20日(木) 12:00～ ③平成26年12月12日(金) 14:40～ ④平成27年1月16日(金) 15:00～ ⑤平成27年2月9日(月) 16:20～ ⑥平成27年3月11日(水) (平成26年前期より通年で定例開催した実習検討会で実施した)</p>	<p>2416会議室 (3月11日のみ2210会議室)</p>	<p>テーマ 看護学科 臨地実習教育の継続評価 参加者 ①9名②8名③9名④10名⑤10名⑥9名 簡単な状況報告 平成25年8月に作成した臨地実習におけるコミュニケーションスケール自己評価表(以下評価表)は, 実習での[基本的態度], [患者・家族とのコミュニケーション], [指導者・スタッフとのコミュニケーション]に関する20項目からなる。学生は各学年の臨地実習前後で評価表を5段階で自己評価(各項目5点満点, 合計100点満点)し, 学生自身が実習でのコミュニケーションを振り返り, ポートフォリオとして活用してもらった。 平成26年度前期は4年次生が評価表を活用。後期は1年次～3年次生が評価表を活用した。実習前後の自己評価の結果(評点と自由記載内容)を学年ごとに記述的にまとめ分析し, 結果を検討した。回収率:1年次98.3%, 2年次98.4%, 3年次96.6%, 4年次89.8%であった。4年次実習後に最も平均点が高かったのは[基本的態度](4.89±0.06), ついで[患者・家族とのコミュニケーション](4.71±0.13), 最も低かったのが, [指導者・スタッフとのコミュニケーション](4.36±0.14)であった。中でも「自分の考えをまとめ, 分かりやすく説明する」(4.13±0.51)が最も低かった。 前後の比較: 実習後はすべての項目において上昇していた。有意差がみられたのは, 1～3年次では20項目すべて, 4年次では「時間が守れる」を除く19項目であった。 学年間の比較: 25年度1年, 2年, 3年の実習前後の合計点の平均を比較し, 実習前より, 実習後は合計点は上昇していた。また, 学年ごとに実習後の合計点の平均は4年次実習後は最も高かった。指導者・スタッフに分かりやすく説明することを苦手としていることが明らかになり, 実習を経て経年的にコミュニケーション能力の自己評価が上昇していることが伺えた。 次年度も引き続きコミュニケーションスケールを用いた評価を継続する。今後3月末に開催される看護学科会議でコミュニケーションスケール自己評価の結果を看護学科全教員に共有し, 平成27年4月に開催される実習指導担当者協議会において臨地実習指導者へ結果の公表を行い, 今後の臨地実習教育へ活かす示唆を得たい。</p>

<p>保健福祉学部 理学療法学科</p>	<p>田中 聡 学科長</p>	<p>①平成26年10月1日(水) 9:00~9:30 ②平成26年11月5日(水) 9:00~9:30 ③平成26年12月24日(水) 9:00~9:30 ④平成27年1月23日(金) 13:00~14:00 ⑤平成27年1月28日(水) 9:00~9:30 ⑥平成27年3月25日(水) 9:00~9:30</p>	<p>④のみ2313 講義室, 他はすべて2409会議室</p>	<p>テーマ 理学療法学科における学内および臨床教育の改善 参加者数 12名, ②15名, ③14名, ④42名(教員10名, 実習指導者32名), ⑤15名 簡単な状況報告 ①「中央教育審議会資料から探る大学教育の将来」(塩川満久) ②「グローバル教育を考える」(島谷康司) ③「神経障害理学療法Ⅰにおける取り組みと学生理解到達度の検討」(高宮尚美) ④「平成26年度臨床実習指導者会議ワークショップ」(理学療法士の教員および理学療法学科の臨床実習指導者) ⑤「韓国慶南大学訪問報告」(田中 聡) ⑥「カリキュラム検討会(前期)および「後期成績不良者の指導について」(全員) ②③⑤については, 左記タイトルの通り。④は教員と実習指導者を6名程度の小グループに分け, 「学生を伸ばす実習指導の在り方について」をテーマに, 特に「過激な実習指導の再生産」について, 再生産のメカニズムと対応についてグループ討議と発表を行った。また⑤については, 平成27年度の新カリキュラム該当科目について, その内容を確認・検討するとともに, 平成26年度の必修科目の単位を修得できなかった学生について, チューターからの情報を元に, 全員で指導方針を話し合った。</p>
<p>保健福祉学部 作業療法学科</p>	<p>山西 葉子</p>	<p>平成27年3月25日(水) 12:30~13:00</p>	<p>三原キャンパス 2416室</p>	<p>テーマ 国家試験の動向とその対策—平成28年度国家試験出題基準改定を踏まえて— 参加者数 14人 簡単な状況報告 講師: 作業療法学科 山西 葉子 平成28年度版理学療法士・作業療法士国家試験出題範囲の改訂が発表された。国家試験の実施方法および, 全国合格率の推移を示し, また出題基準の変更点, 追加点を紹介した。 1・2年次より運動・解剖・生理学に関する基礎科目の模擬試験を実施し, 早期の取り組みを行うことで, 通常の科目の学習も補強し, 国家試験に対応できる力を養うことなどの具体的対策案等も検討することができた。</p>
<p>保健福祉学部 コミュニケーション 障害学科</p>	<p>渡辺 眞澄 津田 哲也</p>	<p>①平成26年11月19日(水) 9:00~10:30, 14:40~15:50 ②平成27年1月28日(水) 12:15~13:00</p>	<p>1309演習室, その他(1316 講義室)</p>	<p>テーマ 教員および実習指導者の研究・教育方法の共有と向上 参加者数 教員は概ね15名, 11月19日の講演を聴講した学生は30名であった。 簡単な状況報告 ①難聴者の聞こえにくさを体験できる模擬難聴システム—背景と実現法—(入野 俊夫 先生・松井 淑恵 先生: 和歌山大学 デザイン情報学科), 永江 美沙貴 先生: 和歌山大学大学院 システム工学 研究科) ②ビジュアルアナログスケール(VAS)と段階評定のシミュレーション: VASによる3群の測定データを, 7~3段階評定データとして変換し, その分布と統計検定の結果を比較してみました(古屋 泉 先生)</p>

				①11月19日の会は、学外講師による最新の研究発表・学科教員との討議（午前）の後、午後は2年次学生を対象として同講師による講演が行われた。②1月28日の会では、学科教員が行っている研究の紹介と教員同士の意見交換が行われた。
保健福祉学部 人間福祉学科	江本 純子	①平成26年10月31日(金) 9:00~10:30 ②平成26年11月5日(水) 14:40~16:10 ③平成26年11月10日(月) 13:00~14:30 ④平成26年11月12日(水) 14:40~16:10 ⑤平成26年11月17日(月) 16:20~17:50 ⑥平成27年1月21日(火) 9:00~10:30	3123, 4208, 3306, 4208, 1101, 2202	<p>テーマ 福祉士養成教育再考：高水準の福祉を実現できる人材の養成をめざして</p> <p>参加者数 ①5名, ②1名, ③1名, ④1名, ⑤1名, ⑥1名</p> <p>簡単な状況報告</p> <p>①家族支援論：澤田千恵, ②社会福祉援助演習：松宮透高, ③社会保障論：都留民子, ④社会福祉援助演習：松宮透高, ⑤精神保健福祉援助実習指導：精神保健福祉担当教員, ⑥社会福祉援助演習：永野なおみ</p> <p>人間福祉学科では、平成26年度FD活動として、年間を通じて全教員が1回以上の授業公開を実施し、2回以上の公開授業参加を実施している。前期は、6科目の授業公開を実施し、それぞれ1名以上の参加があった。</p>